

市民研究員養成講座 平成 27 年度の取組

茅野市八ヶ岳総合博物館 若宮 崇 令*

博物館活動に有機的に関わり、博物館を支え高める担い手を養成することを目的に開始した市民研究員養成講座を 1 期 3 年間で計画し、平成 24 年度に発足した。平成 27 年度は、第 1 期の最終年度に当たっている。この講座は座学中心ではなく、主に野外での観察調査や実験製作等実践的な活動を通して学びと経験を深める手法を取り入れている。途中からの参加・不参加は自由であるため多少の増減はあったが初の 36 名より増加し、3 年目の現在 60 名の方が参加されている。参加者には植物、陸水、菌類、鳥類、実験工作の 5 つのグループのいずれかに所属してもらい、所属グループの活動に参加していただいた。グループの指導は以下の表にある専門家に当たっていただいた。市民の中には 2 つのグループに所属し参加された方もいた。参加回数 7 回以上、講演会受講後のレポートの提出の基準を満たすと「市民研究員認定証」を授与させてもらった。1 年目 17 名、2 年目 9 名、3 年目 9 名に認定証を授与したので、第 1 期終了時、認定証を授与された方は合計 35 名になった。認定者には第 2 期以降の活動の大きな歯車になっていただくとともに、博物館活動を支えていただくことにしている。ただ、昨年度水田のミジンコを長期にわたり連続して採集調査し、水田のミジンコの生活史を明らかにするという大きな成果を上げた陸水グループについては、都合で今年度の活動を休止せざるを得なくなったのは残念であった。

分野	指導者	所属参加者数
植物	名取 陽	29
	岩波 均	
	白鳥 保美	
	武居 三男	
陸水（ミジンコ）	花里 孝幸	6
	君島 祥	
菌類（キノコ）	小山 明人	18
鳥類	両角 英晴	11
実験工作	木村 正弘	8

上記指導者が一堂に会した指導者会を、1 月 14 日に開催し、全体の進捗、今後の予定の検討確認、市民研究員認定予定者の審査等を行った。

さらに博物館に関わる市民の関わり方についていろいろ考えてもらえるよう、また学習を深めていただけるように講演会を 3 回、以下のように開催して受講後のレポートを提出していただいた。

- ・「博物館活動市民参加の今後」 5 月 31 日（日）東京学芸大学教授 君塚仁彦
- ・「シダから見た八ヶ岳山麓の自然」 10 月 25 日（日）信州大学教授 佐藤利幸
- ・「極限に生きる植物（地球環境から見た諏訪の植物生態系）」 11 月 14 日（土）静岡大学特任教授 増澤武弘

各グループの毎月の活動のうち何回かを公開してもらい、受講者以外にも参加してもらった。この参加者の中から受講者に加わった方もいた。この一般の人も参加する公開したグループの活動の時には、市民研究員が前面に出て指導者のサポートを積極的に行っていた。このような傾向は養成 2 年目の昨年度から見られたが、3 年目の今年度はより顕著になり、市民の皆さんがそれぞれの分野の力を確実につけておられるのが見て取れた。中でも実験工作グループは、指導者に指導してもらったグループの活動以外に、子どもたちを対象にした博物館の事業として毎月 1 回開催している実験工作クラブ、ワクワク実験工作教室、数回開催する夏休みこども教室に、グループの活動の中で開発した教材を使って講師を務めてくれ、博物館活動に大いに関わってくれるようになった。

今年度も年度末に開催される博物館活動発表展に、各グループの活動の様子と成果を多くの人に知っていただくため、各グループの出店ブースを設けた。また、会期最終日の 3 月 21 日（月・祝）にはそのブース前で、活動内容と成果をより一層多くの市民に知っていただくよう各グループのワークショップを開催した。

各グループの活動内容と 3 年間の成果については、各グループの活動報告を参照していただきたい。

第 1 期 3 年の市民研究員養成講座を終了するにあたり、想定した以上の博物館活動をサポートしてくれる市民「市民研究員認定者」が誕生してくれ喜んでいる。今後はこれらの市民研究員に活躍していただき、市民が市民に働きかける拠点としての博物館にし、博物館活動を活性化させていきたい。と同時に扱う分野の拡大と、さらに市民研究員に力をつけていただくため第 2 期 3 年をスタートさせる予定である。第 2 期で拡大する分野として、植物のシダに特化したグループと、天文グループの 2 つを考えている。

* 茅野市八ヶ岳総合博物館学芸員